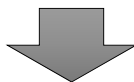


第1回企画検討会「研修のあり方」に係る意見整理

委員意見の整理

区分(大)	区分(小)	委員意見の要旨
A 「地域研修(仮称)」の位置付け、あり方に関する意見	1 研修の位置づけ、あり方	「地域研修(仮称)」の目的があいまい。「地域研修(仮称)」と「有明の丘研修」の位置づけを明確化する必要がある
		「地域研修(仮称)」は、都道府県が自立して実施できるとよい
		「地域研修(仮称)」は、都道府県単単位で実施できるとよい
		「地域研修(仮称)」は、都道府県が中心となり実施し、都道府県・市町村・防災会議メンバーである関係機関などの関係者も受講できるとよい
		国と都道府県が連携して「地域研修(仮称)」を実施できるとよい
	2 開催の方法	都道府県が自力で研修を実施できる環境整備が必要
		市町村が参加しやすい研修となるよう、地域研修(仮称)は説明会と研修を併せて実施
		南海トラフ地震の影響のある都道府県に対する研修を強化するとよい
B 「地域研修(仮称)」の内容、進め方に関する意見	1 内容	地域の災害特性を踏まえた研修にすべき
		指揮官向けの内容、「防災基礎」以外の内容もあるとよい
	2 進め方、ツール	受講者のニーズから見ると、かならずしも「地域研修(仮称)」が「防災基礎」ではない。地方のニーズを把握しながら、数年かけて本気で地方用のプログラムを開発する必要がある
		中長期的な視野でみると、防災スペシャリスト養成研修で本来いくつのカリキュラムをもつべきかを考え、それをベースにカリキュラムを充実させ、標準テキスト・テストを作成し提供していく必要がある
		土地のことをよく知っているコーディネーターを各地域に配置するとよい

区分(大)	区分(小)	委員意見の要旨
C 「有明の丘研修」 との連携に関する 意見	1 トレーナーズトレーニング	「有明の丘研修」で講師を養成するとよい 「有明の丘研修」の資格認定と連動した講師養成プログラムにしてはどうか 研修の修了を証明するための資格のようなものを与えてはどうか
	2 有明の丘研修の役割	地方における研修の仕組みができあがってくると、 <u>将来の「有明の丘研修」の役割</u> は ・新しいカリキュラムの開発 ・講師の養成(認定) ・地方における研修実施の支援(インキュベーター) になるのではないかと
D eラーニングに関する 意見	1 eラーニングの公開	将来的にはeラーニングを広く公開する 研修を広めていく方策の一つとしてeラーニングの活用が考えられる
	2 eラーニングの学習内容	「地域研修(仮称)」でもeラーニング「事前学習」を実施するとよい eラーニングで「事後学習」をする仕組みがあるとよい



意見を踏まえた今後の研修のあり方整理 (改善の方向)

- 「地域研修(仮称)」の位置づけを明確化する
- 基礎的能力を身につける研修を、地方が自立して行えるようになることを目指す
- 「地域研修(仮称)」は、地域の災害特性や地域ニーズを含めたカリキュラムとする
- 数か年かけて、地方のニーズを踏まえた「地方向けプログラム」を開発し提供する
- 「有明の丘研修」で講師を養成し、地方に提供する仕組みをつくる
- 「地域研修(仮称)」の仕組みの整備に伴い、「有明の丘研修」の役割等も見直していく
- eラーニングを公開し、広く多くの人の能力向上を図る